



## episode 20 父と息子 同時期の苦境に寄り添ってくれた一冊

投稿者 上岡 由紀男 さま(千葉県)

何気なくつけたラジオで、太田裕美さんの「パパとあなたの影ぼうし」が流れていた。その曲を聴いて、すぐに引き込まれた。歌詞が素晴らしく、息子と自分のいま置かれている境遇に、相通じるところがあったからだ。それから暫くして、その曲は絵本となった。



『パパとあなたの影ぼうし』  
こんのひとみ 作  
金の星社 2001年

息子は小学校入学後、サッカーを始めた。運動が大の苦手であった息子は、皆の練習についていくだけでも大変だったはずだ。息子が6年生になった時、6年生でただ独りレギュラーになることができなかった。息子はすごく頑張っていたと思うが、レギュラーを取る子と息子の力の差は歴然としていた。息子は、息子なりに傷つき苦しんでいたが、周りに気を使わせないためか、努めて明るく振舞っていた。試合の時、ベンチで一番大きな声で声援をしていたのは息子であった。

一方の私も、会社で大きな問題を起こしてしまった。製造の品質管理責任者の立場であった時、使用していた塗料違反の問題で、商品回収の事態を引き起こしてしまったのだ。商品回収は顧客の安全安心を脅かし、会社の信用、会社への経済的ダメージ等、各関係者に甚大な迷惑を掛けることを、失意のなか嫌というほど思い知らされた。私は、この絵本を息子に手渡した。息子には、絵本の男の子のように、あきらめずに続けていくことの大切さを知って欲しかったし、私は私で自暴自棄に陥らず、この大きな失敗から立ち直る決意をこの絵本から得ていた。

息子は、中学校に入ってもサッカーを続け、地道な努力を重ねていった。そして3年生の春、レギュラーを勝ち取ることができたのだ。私は、この大きな失敗から学ぶべく、品質管理体制を一から見直し、品質管理向上へとどうにかつなげることができた。『パパとあなたの影ぼうし』は、息子と私がそれぞれ辛い思いに打ちひしがれていた時、そっと寄り添ってくれた。この絵本は、息子の部屋の本箱に、今でも大切に飾られている。

『絵本の日アワード in FUKUOKA 2022』投稿作品より



本連載は「医療法人元気が湧く」が主催する“絵本の日アワード”に応募された作品を掲載していきます。毎年、300～450編の応募がある「絵本にまつわるエピソード」の作品から、「絵本の魅力」と「絵本のチカラ」のつまったエピソードを選び、その魅力と感動を読者の方々にも共有していただきたいと願って、投稿者の了解を得て紹介しています。さらに、人に影響を及ぼした絵本のバックグラウンドについて、司書の専門的な視点による解説を加え、一冊の絵本のある部分では“深く”、そしてある部分では“広く”、興味を広げていただきたいと企画しました。



## 伝説の「みんなのうた」

21世紀初頭に、NHK「みんなのうた」で大流行した「パパとあなたの影ぼうし」は、現在、お子さまが20歳前後となり、子育てを終えたくらいの方にとって、当時がよみがえる懐かしい歌ではないでしょうか。

NHKの長寿番組「みんなのうた」で、この楽曲が放送されたのは2001年4-5月のことでした。シンガーは、昭和フォークソング全盛期の中心を担ったひとり太田裕美氏で、その甘い歌声が連日のように響きわたると大反響を呼び、NHK放送局には作者についての問い合わせが殺到したという伝説の「みんなのうた」なのです。

## 「みんなのうた」から生まれた絵本です

絵本『パパとあなたの影ぼうし』の作者・こんのひとみ氏の名前を目にして、絵本作家と認識されている方も少なくないと思います。なぜなら、本誌で連載していた「大人が絵本を手にするときは！」第77回で紹介した、『いつもいっしょに』『くまのこうちようせんせい』（ともに金の星社刊）の作者に間違いないからです。

『パパとあなたの影ぼうし』は「みんなのうた」から生まれた絵本なのです。音楽を、絵本という表現形式に変換した芸術作品というわけです。

この曲が「みんなのうた」に採用される前のこんのひとみ氏は、コマーシャルソングやナレーションとライブ活動が中心のシンガーソングライターで、メジャーな立場ではありませんでした。それが「みんなのうた」をきっかけに、メジャーデビューアルバム「ちいさな声～パパとあなたの影ぼうし」がリリースされると、テレビ番組に出演するようになり、その名は全国区となるのです。

## 息子へ、夫へ、社会へのメッセージ

「パパとあなたの影ぼうし」は、こんの氏の長男と父親(夫)による実話が元になっています。小学校の運動会で、徒競走の最後尾を走る息子を懸命に応援しながらも本気で悔しがる優等生のパパと、不器用な息子の

二人をやさしく見つめたのは、母であり妻であるこんの氏でした。そんなこんの氏の、「あきらめないことが大切」というメッセージが詰まっているのです。

父と息子の物語は、母そして妻目線によって紡がれていき、次には父親が人生初の挫折にぶち当たるのです。「伝えられない気もちや叶わない思いというものは、子どもも親も同じで、すべては『あきらめないことが大切』」と説くそのことばが、感動を呼んだのでした。

## 「でたらめ子守歌」は、母の愛

こんの氏がメジャーデビュー以前から行っていたライブ活動とは、「出前ライブ」なるものでした。きっかけは子育て渦中に、母親としての至らなさに真向かいになったとき、子どもの気もちをそのままメロディーにのせて、子どもが眠るまで歌い続ける「でたらめ子守歌」だといいます。

わが子への励ましをこめて、時には祈るような願いをこめて、あるいは自分自身を励ましながら歌った子守歌を、こんの氏の夫がこっそりカセットテープに吹き込むことにはじまるのです。「でたらめ子守歌」の話が友人にすると、「働くお母さんの集まり」で歌うことになり、それが口コミで広がっていった、学校や福祉施設など場所を選ばない「出前ライブ」が拡大するのです。

自分とわが子の「小さな声」から出発した楽曲づくりは、ライブに集まるさまざまな人の「小さな声」に広がり、その声はメロディーとしてだけでなく、書籍としても発信されて、子育てに限らず、人生に悩む子どもたちと大人たちの支えとなっていったのでした。

「ちいさな声」に耳を傾ける行為こそ、ホスピタリティ精神そのものなのです。

### 文献

- 1) こんのひとみ：パパとあなたの影ぼうし、金の星社、東京、2001.
- 2) こんのひとみ：ちいさな声～パパとあなたの影ぼうし、ポプラ社、東京、2001、149p.
- 3) 川崎龍彦：「みんなのうた」が生まれるとき、ソフトバンククリエイティブ、東京、2006、pp.59-69.